

企画講座

伊勢歌舞伎と「千束屋」～史資料から読み解く伊勢古市～

講 師 小林 郁 皇學館大学佐川記念神道博物館学芸員・助教

伊勢で芝居が上演されるようになるのは、江戸時代初期(17世紀前半)とされています。当時、江戸・京都・大坂に次ぐ歌舞伎の先進地域であった伊勢は、「上方歌舞伎の登竜門」として、歌舞伎役者の間で重要な場所に位置付けられていました。特に、内宮・外宮の中間地点に位置していた古市には芝居小屋が常設されており、中之地蔵(現在の中之切町)と共に「間の山両町」として親しまれ、多くの参宮者が往来したことから、伊勢随一の歓楽街として栄えました。本講座では、当時の古市で歌舞伎用品の貸出業を営んでいた「千束屋」の史資料(神道博物館所蔵)を中心にご紹介し、伊勢歌舞伎によって栄えた近世の伊勢古市の姿についてお話しします。

日 時 6月7日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

神風の伊勢

講 師 齋藤 平 皇學館大学教授

伊勢に掛かる枕詞は「神風の」ですが、古語では「かむかぜの」と読んでいます。まず、「かみかぜの」ではなく、「かむかぜの」とする理由をお話しすることから始めます。これは、国語学者の有坂秀世が提唱した、語構成の捉え方で説明することができます。また、この語源の解釈については、荒木田久老や御巫清直が意見を開陳しています。今回の講座では、特に先人の解釈に目を配りながら、考えてみたいと思います。

日 時 6月16日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

伊勢国司北畠氏の歴史④

講 師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

三重県内各地に伝えられる伊勢国司北畠氏関係の古文書を読み解くことで、中世後期の伊勢を生き抜いた北畠氏の歴史を見ていこうというシリーズの第4回目。今回は石水博物館所蔵の「北畠氏奉行人奉書」を読みながら、応永・正長の二度にわたる北畠満雅の乱について考えてみます。中世の古文書を読むようになりたっている方、大歓迎!!

日 時 6月20日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

はじめての花結び ～さくらんぼのブローチ～

講 師 川本 美香子 日本結び文化学会会員

「花結び」は一本の紐を手で結び、花や蝶、紋などの形をつくる飾り結びです。「結ぶ」という行為には、長い歴史と伝統に培われた美しさが存在しています。古代人は、その結び目に神の御心が宿ると信じていました。仏教の伝来と共に花結びが伝えられると、花結びの文化は一気に花開きました。現在でも、信仰に関するもの、日本の伝統的なものなどには残っていますが、日常の暮らしからはほとんど消えてしまいました。そんな優美な結びを現代風にアレンジして楽しんでみましょう。今回は初夏の果物さくらんぼをモチーフにしたブローチを作ります。几帳結び、釈迦結びの2種類の花結びを組合せて、可愛く仕上げます。また太さの違う紐で大小2つのさくらんぼブローチが作っていただけます。いつもの洋服や帽子・バックなどにアクセントとして付けておしゃれを楽しみましょう。(筆記用具・ハサミ・ピンセット・まち針(2本)を必ずお持ちください) ※材料準備の都合により、6/13に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日 時 6月23日(木) 13:30～15:30 参加費 会員 2,400円 ビジター 2,900円(材料費含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 15名限定

お寺と仏像を知ろう その1 ～女人高野室生寺～

講 師 瀧川 和也 三重県総合博物館調査・資料情報課課長

仏像のお話ならこの人といわれる瀧川先生に、名前も知っているし、拝んだこともあるけれど詳しいことはほとんど知らないという有名な仏像についてお話しいただく企画です。1回目は名張市のお隣にある室生寺、あまりに近いのでスルーしがちですが、なんと建物も仏像も国宝や重要文化財がいくつもある宝の山のようなお寺なのです。創建は奈良時代末期ですが、形が整ったのは平安時代前期です。建物の金堂、本堂、五重塔が全て国宝、弥勒堂は重要文化財。仏像では金堂の釈迦如来立像が国宝、文殊菩薩、薬師如来、十二神将の一部が重要文化財、本堂の如意輪観音、両界曼荼羅、弥勒堂の弥勒菩薩も重文です。寶物殿には国宝の十一面観音立像、釈迦如来坐像、重文の地藏菩薩、十二神将の一部が納められています。こんな多いと何かなにやらからなくなりそうですが、先生に整理していただきながらじっくりと伺いましょう。

日 時 6月27日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

伊勢参宮と宮川の渡し

講 師 太田 未帆 元伊勢市総務部総務課市史編さん係嘱託

三重県最大の流域面積をもつ宮川。江戸時代の伊勢では「参宮の玄関口」として栄え、無料の渡し船がありました。文政のおかげ参りには、渡し船の利用者は一ヶ月で200万人を超えたとも伝えられています。賑やかな宮川の渡し場の様子は、浮世絵や紀行文などにも描かれ、伊勢参宮の象徴的なシーンのひとつともいえるでしょう。本講座では、江戸時代の宮川が、地域の人々や参宮客にとってどのような存在であったのかを読み解きます。

日 時 7月4日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

倭姫命の御巡行地を訪ねて その2

講 師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

延暦23年(804)撰述の「皇太神宮儀式帳」によれば、天照大御神を戴いた倭姫命が、美和の御室宮を出発されて、はじめておとどまりになったところが阿貴宮です。平安時代後期、内宮禰宜家荒木田神主の家伝書とされる「太神宮諸雜事記」には阿貴宮が皇大御神の「はじめて天降り坐す本所」として特筆されており、古来このお宮が殊に尊崇されてきた由緒を物語っています。次に佐々波多宮について、書紀垂仁天皇二十五年三月条によれば、倭姫命はまず「大神を鎮め坐させむ処を求めて、菟田の筱幡に詣る」と記され、その後は御巡行された国々として近江・美濃・伊勢の名が見えますが、その国内のどこに宮を定められたかは書かれていません。ただ「筱幡」だけが地点として明示されています。何故でしょうか。いよいよ大和国を離れる最後の地点であるから特筆されたのでしょうか。いずれにしても筱幡は、書紀が掲載する御巡行のルートの中で唯一挙げられた地名です。今回は阿貴宮と佐々波多宮の比定地を中心に、また何故書紀には伊賀の名が無いのかも解説します。

日 時 7月5日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

中国茶を楽しむ

講 師 須永 知佐 中国茶茶房「茶KURA」オーナー

いつも美味しくて楽しい中国茶講座。今回は須永先生のお店で二種類のお茶とお菓子をいただきます。一つは夏場に最適な青茶のひとつ凍頂烏龍茶を冷茶でいただきます。凍頂烏龍茶は、台湾の代表銘茶のひとつで、生産量が少ないので貴重なお茶です。半発酵のきれいな黄金色で香りが清らかです。その効能は女性にはうれしい美肌効果、アレルギー抑制、中性脂肪分解、活性酸素抑制があり、とっても上品で美味しいお茶です。もう一つは花茶のひとつ杭白菊茶をホットでいただきます。杭白菊茶の主な効果は、リラックス・下痢止め・解毒などと言われており、特に眼精疲労には効果が期待されています。お菓子は当日のお楽しみ、須永先生おすすめ中国茶でリフレッシュして夏を乗りきりましょう。

日 時 7月6日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 2,400円 ビジター 2,900円(お茶・お菓子代含む)
場 所 茶KURAに13:30集合 定 員 15名限定

漢字の旅「国、城、家」～高先生に学ぶ漢字は面白い～

講 師 高 潤生 書道篆刻家・現代印作作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古いの結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。今回、注目するのは「国、城、家」。『国破り山河あり』、杜甫の「春望」詩をよみ、唐代の戦乱と楊貴妃の愛恨情愁を語り、詩中の「国、城、家」を、甲骨文、金文の視点から、その文字形成に秘めた意味を考えてみます。また、甲骨文・金文の書き方を手ほどきします。(ボールペンや筆ペンでも可です)

日 時 7月12日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名



夏旅・鉄道 ～青春18きっぷの賢い使い方～

講 師 浅野目 政夫 暮らしの達人

解放感のあふれる夏、ずっとコロナで抑えられていたので旅に出たいですね。どうせなら旅感満載の鉄道の旅に出かけてみませんか?心地よいリズムに身を任せ、車窓の景色を楽しむ、通り過ぎる駅もまた風情があります。目的地が決まったら自分でプランを立ててみるのも面白い、どの列車に乗りうか、どういう風に乗り継ごうか、あの駅で下車しても買おうかなど車では味わえないことがたくさんあります。今回は時刻表の見方や駅ごとのお楽しみ、そしてあの「青春18きっぷ」の裏技などを教えていただきます。「青春18きっぷ」は、全国のJR線の普通列車・快速列車に乗り放題のフリーパス。“1日乗り放題”を5回分案しめて、使い方によっては、究極のお得な切符です。また列車だけでなく、JRの宮島フェリーにも乗れます(但し特急列車には基本乗れません)。そして何歳でも利用できるって知っていました?浅野目さんに丁寧に解説をしていただいて、鉄道旅行には今や欠かせない必須アイテム?とも言える「青春18きっぷ」を、みんなでお得に使いこなしましょう!

日 時 7月22日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(時刻表付き)
※時刻表をお持ちの方はお知らせください。
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

浮世絵と名所図会でよみとく三重の名所

講 師 星野 利幸 三重県総合博物館展示・交流事業課課長

江戸時代、社会の安定と経済の発展により、庶民にとって旅は身近な存在となりました。同時に、旅そのものだけでなく、旅先の名所旧跡、名物に関する関心も高まりました。これらの関心に応えたものが、名所風景を描いた浮世絵や風景図を挿絵とした「名所図会」と呼ばれた地誌などの出版でした。三重でいえば、宿場や街道風景を描いた歌川広重の東海道五十三次のほか、二見浦などが浮世絵に描かれました。また、『東海道名所図会』『伊勢参宮名所図会』からは浮世絵に描かれなかった名所も知ることができます。今回は、三重の名所を浮世絵や名所図会から紹介し、その特徴などをさまざまな視点から考えてみたいと思います。

日 時 7月25日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

大人も子供も楽しい陶芸

講 師 村上 光男 陶芸家

土を自分の思っている形にしていってすごい事だと思いませんか。陶芸には様々な手法がありますが、塾では粘土を手で成形していく手びねりで、茶碗やマグカップを作ります。陶芸初心者の方でも子供の頃によくやった粘土遊びの要領でやってみると、意外とお気に入りの器が出来上がります。子供を誘って親子で腕比べも面白いですね。村上先生はいつも優しく丁寧に教えてくださいますので心配はいりません。完成作品の少々のゆがみは器の味ということで、一度チャレンジしてみませんか。 ※出来上がった作品は焼いた後に塾に取りに来ていただくか、着払いで送らせていただきます。(エプロンとタオルをお持ちください。)

日 時 7月27日(水) 13:30～15:30 参加費 会員 3,200円 ビジター 3,700円 12歳以下 2,750円(材料費含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 15名

伊勢の萬金丹とクラフトコーラ

講 師 加藤 宏明 伊勢くすり本舗株式会社代表取締役・薬剤師

伊勢の名物といえば? お餅、うどん、たくわん…食べ物とたくさん思い浮かべるかもしれませんが、今回は「越中富山の反魂丹、鼻くそ丸めて萬金丹」という俗謡でも親しまれてきた萬金丹の歴史と今をお聞きます。江戸時代に懷中薬として広まった伝統薬の萬金丹は、多くの偽物が出るほど人気でした。流派をはじめ、薬の効能や歴史、そもそも伝統薬とはどんなものなのか、そして今ブームになっているクラフトコーラとの関係は? 優しく解説していただき、話題のクラフトコーラの試飲も楽しみましょう。お話しが終わったら、最近新しくできたカフェ併設の伊勢くすり本舗へみんなで伺います。伝統薬「萬金丹」のほか、生薬をつかった新しい商品も実際に見てみましょう!

日 時 8月3日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 1,000円 ビジター 1,500円(材料費含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

七夕と煎茶

講 師 藤原 和美 皇風煎茶禮式師範・日本現代作法会助教

この日は旧暦の七夕、新暦の七夕は梅雨の時期と重なるので雨になることが多いのですが、この頃ですとまあ大丈夫、星空も美しくみえますね。特別に用意した笹に皆様の願い事を吊るしていたいただいてお茶席を始めたいと思っています。煎茶も夏らしく冷茶、ゆるゆると葉が巻き戻り、水が掬くなってゆく様子をお話を伺いながら待っているのも至福の時です。お点前は皇風煎茶禮式準総師範の杉山 理先生です。茶道の方はなかなかにお作法が難しいのですが、お煎茶はほんとに気軽に楽しめますし、お道具はどれも小ぶりので可愛らしく、拝見しているだけでも心が和みます。この数年なんとなく心にあらずといった時を過ごしてきたので、ちょっとお洒落してお茶の世界にあそびませんか?

日 時 8月4日(木) 13:30～15:30 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(お茶・お菓子代含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 15名限定

天気のおしくみと予報の舞台裏

講 師 小林 修二 名古屋市科学館学芸課学芸係長

晴れたり曇ったり、暖かくなったり寒くなったりと、日々天気は変わり続けます。そんな身近な天気のおしくみを、身の回りの体験や雲を作る実験などを通して、お話しいたきます。また、ふだん何気なく見ている天気予報も、予報の現場を知るとその見方が変わってきます。この講座を通して、明日以降の天気との付き合い方が、少し変わるかもしれません。

日 時 8月8日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

日本の神話①～古事記を中心として～

講 師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

2月11日は建国記念の日、神武天皇が即位された日です。あまりに遠い昔なのでピンと来ませんが、それ以来代々の天皇のもと日本の国は続いてきました。実は神武天皇も実在の人物なのか定かではないのです。その時代のことは古事記や日本書紀に伝えられてきたことで神様と人との境があやふやなのです。天皇家の祖先は伊勢神宮にお祀りされている天照大御神とされています。神話の中で大きな存在ですが、今や「アマテラスって誰?」という程度にしか知られていませんし、スサノオやオオクニヌシにいたっては聞いたこともないというのが実情です。しかし大黒様は知っています。なんてたって福の神だからです。これでいいのでしょうか?日本の国の成り立ちに深く関係する神様方のことを知らずして日本の歴史が語れるのでしょうか? 日本文化再発見を目指す五十鈴塾としてはぜひ皆様に日本の神話を知っていただくために山中先生にお願いしてシリーズで企画しました。先生のお話は隣に神様が棲んでいるかのようなとても人間味あふれるお話です。

日 時 8月23日(火) 18:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

夏の星見とサンプルリターン

講 師 毛利 勝廣 名古屋市科学館学芸課天文主幹・学術博士

夏の星空には、夏の三大角やさそり座など見どころがたくさんあります。さらにこの夏は土星が加わってさらににぎやかです。晴れたらレーザーで夏の星座をたどったり、望遠鏡で土星をご覧いただきたいと思います。2020年12月に帰還したはやぶ2のカプセルやサンプルの展示が全国を回っています。今年は名古屋で11月に公開があり三重県にもやがて回って来るでしょう。そこで地球外からのサンプルリターンについて50年にも渡る歴史と成果、未来についてお話したいと思います。

日 時 8月26日(金) 18:30～20:30 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円(お菓子付き)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名 ※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です。

鳥羽商船学校と伊勢大湊の市川造船所

講 師 伊藤 政光 鳥羽商船高等専門学校名誉教授

伊勢市大湊町において元禄15年から昭和53年まで造船業を営んだ市川造船所は、明治以降の洋式大造船の建造において日本造船史に残る多くの船を建造しました。また大湊より海上5海里的伊勢湾口に位置する鳥羽に存在する鳥羽商船高等専門学校は、明治の六大教育家の一人である近藤真琴によって明治14年に開校された工芸社分校鳥羽商船寮に始まります。今日に至る鳥羽商船学校と呼ばれ多くの船員を養成してきました。ここでは市川造船資料から新たに判明した双方の密接な関係を通して時代ごとの海事教育の変遷を見ていきます。

日 時 8月30日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

楽しい俳句

わずか17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを誰もし出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らず15・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の人々を作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかやすくノウハウを教えてください。

講 師 石井 いさお(煌星俳句会主宰)
期 日 6月22日(水)・7月27日(水)・8月24日(水) 時 間 各回10:00～12:00 定 員 20名
参加費 各回 会員 1,600円 ビジター 2,100円

野外講座

おんべ鯛の故郷へ行く～篠島から伊勢神宮へ奉納、千年の歴史～

五十鈴塾事務局

篠島は知多半島にあり、古くより神宮と強い結びつきがある島です。

日本書紀にも記録されているほど深い歴史を持ち、千年以上にわたって島で採れた鯛を塩づけに調製し、10月の神嘗祭と6月・12月の月次祭にお供えされます。この干鯛のことを御幣鯛(おんべだい)と呼んでいます。島では毎年10月12日には、篠島中手島の御贄干鯛調製所から運び出された干鯛を「太一御用」の旗を掲げた奉納船団6隻にのせて伊勢神宮に奉納する「御幣鯛奉納祭」が行われます。伊勢神宮のお膝元にある五十鈴塾としてはぜひとも訪れてみたい場所として今回の講座を企画しました。篠島は美しい景色や、歴史のある建造物も目白押しなので、島民の観光ガイドとともに島を巡りましょう。お昼は漁師の営みのお店で、新鮮な海の幸を堪能します。(歩きやすい服装で飲物・おやつなどをお持ちください)

日 時 6月10日(金) 9:15～17:30 参加費 会員 12,000円 ビジター 13,000円(船代・昼食代・ガイド料・保険料含む)

集合場所 9:15に伊勢湾フェリー鳥羽ターミナル集合 定 員 12名限定(最小遂行人数12名)

蓮田見学と魔法の吸水タオル

講 師 浅野 雅己 浅野撫糸株式会社代表取締役社長・五十鈴塾事務局

夏の日、蓮花を見て古民家で魔法のタオルのお話を聞くなりッちな講座です。午前中は愛西市にある蓮田を訪れ、背丈ほどに育った一面緑の葉の中に、大きなピンクや白の蓮の花が咲く美しい景観を堪能します。その後、津島神社そばのフレンチレストラン「まのやラ・プティットシューズ」で和洋折衷のランチをいただきます。午後からは魔法のような吸水性を持つタオル「エアーかおる」を開発した「浅野撫糸株式会社」を訪れます。「ナンバーワンよりもオンリーワンを目指す」常に前向き、ポジティブ思考の大切さをモットーとし、お客様をきちんとした形でお迎えする場を設けたいと、コロナ禍にも関わらず設立50周年を期に、本社・本社工場・創業家本宅・日本庭園を含めた一連を「エアーかおる本丸」として誕生させました。今回は「第8回 再築大賞」の古民家再築部門大賞を受賞された建物で浅野社長のお話をお聞きます。その後はお買い物タイム、ここでしか買えない掘り出し物に出会えるかも。

暑さも盛りになるころですが、盛りだくさんの内容でリフレッシュしましょう。(歩きやすい服装で飲物・おやつなどをお持ちください)

日 時 7月14日(木) 8:30～17:40 参加費 会員 14,000円 ビジター 15,000円(バス代・昼食代・保険料含む)

集合場所 8:25五十鈴川駅ロータリー集合 定 員 15名限定(最小遂行人数13名)

特別企画講座

薬膳料理を知る

講 師 高木 久代 鈴鹿医療科学大学副学長・保健衛生学部教授・日本薬膳学会代表理事

協力 おかげ横丁 すし久

薬膳とは食材の特性を理解しながら、季節、年齢、体質等に合わせて選び調理した膳で、特定の料理ではなく健康を目指した食養生法のことだそうです。基本の考えかたは三つあって①土地にあった食材②時期にあった食材③食べる人の体調、体質、年齢を考慮したもの。もともと中国医学からきたもので、なんと紀元前200年前の周の時代にはすでに食を司る「食医」が一番優秀な医師とされていました。日本にはこの「食養生」の考え方が遣隋使や遣唐使によってもたらされ、飛鳥時代から今日まで日本独自の食養生の考えが培われてきました。薬膳料理の第一人者高木先生のお話を伺って私たちの食生活を健康維持、健康増進に役立つ一助になればいいですね。お話の後は先生ご指導の夏の薬膳料理をすし久でいただきます。

日 時 6月17日(金) 11:00～13:30

参加費 会員 3,800円 ビジター 4,300円 (高木先生考案の薬膳料理付き)

場 所 五十鈴塾右王舎・すし久 (おはらい町通りの食事処)

定 員 20名

聖地巡礼 ～施福寺 落ちてくる稚児～

講 師 西山 克 京都教育大学名誉教授

今回の参詣曼荼羅は大阪府和泉市にある施福寺です。西国三十三所の第四番目札所で標高600mの横尾山上にあり、山岳修験の地として栄えました。歴史は古く6世紀頃、行満上人が丈六の弥勒菩薩を本尊として開いたとされています。弥勒菩薩の右には文殊菩薩、左に十一面千手観音、この千手観音は行基の弟子であった法海上人の作と伝わり、興味深い由緒がありますが残念ながら火災で焼失し、今あるのは江戸時代に再興されたものです。山岳修験の地だけに本堂まで30分ほど石段を登らなければならないので、三十三所でも難所で知られています。さてサブタイトルの「落ちてゆく稚児」ですが、一体どうゆう状況なのでしょう？ 参詣曼荼羅から解き明かしていただきます。

日 時 7月20日(水) 13:30～15:00

参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円

場 所 五十鈴塾右王舎

定 員 20名

神崎宣武塾長 特別講座

神崎 宣武 民俗学者・神崎研究室室長

「絵巻物」を読む ～扇面古写経・餓鬼草紙～

前回に続き絵巻物から読み取れるさまざまな現象のお話です。まず扇面古写経、これは大阪市の名利四天王寺に伝来した装飾経の遺品です。平安時代に流行したもので扇形に切った料紙にした下絵を描き、その上に法華経や無量義教などを写してあり、下絵の材料は貴族や庶民の暮らしです。ことに庶民の暮らしは当時の様子をしのぶのに何よりの資料とされています。餓鬼草紙の方は平安時代から鎌倉時代の不安定な世相を背景にして描かれたもので欲色餓鬼、食糞餓鬼、羅刹餓鬼などこれでもかというほど残酷にしかしちょっとユーモラスにも描かれています。この中から私たちが読み取れるものはなにか、じっくりとお伺いいたしましょう。

日 時 8月17日(水) 18:30～20:00

参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円

場 所 五十鈴塾右王舎

定 員 20名

『「日本」に出会う』シリーズ 第20回

日本各地から地方色が失われています。そして、季節の風情や味覚までも。つまり、日本文化を構成する多様性が失われつつあるのです。何をもって「日本らしさ」かというのも議論がわかれるところですが、五十鈴塾が注目する「日本らしさ」に神崎塾長と出会いに行ってみたいと思います。回数を重ねると、次々に繋げなければならない何かが見えてくることを期待して、歩いて・見て・話しあってみましょう。

答志島を巡る

答志島は鳥羽の離島の中で最も大きい島で、桃取、答志、和具と三つの集落があります。今回はまず答志の港を目指します。時間が合えば大答志の魚市場を見学をし、大漁と海上安全の八幡神社、島の氏神の美多羅志神社にまわります。そして行基作と伝わる薬師瑠璃光如来が安置され、1200年前の創建と伝わる古利潮音寺にお参りします。和具地区に移動して戦国の武将九鬼嘉隆の胴塚、首塚を訪れてから魚市場を見学します。暑い時期ですが、そんなに長い距離ではないので休み休み参りましょう。昼食もお楽しみに！(歩きやすい服装で飲み物、おやつなどをお持ちください)

日 時 8月18日(木) 8:40～15:00

参加費 会員 5,000円 ビジター 5,500円 (船賃・昼食代・保険料含む)

集合場所 8:40鳥羽佐田浜港集合

定 員 20名

千種清美先生 特別講座 (文筆家・皇學館大学非常勤講師)

協力 三重テラス

2030年までに達成する目標として、国連で採択された17の目標が「SDGs」です。伊勢神宮には1300年にわたり継承してきた神宮式年遷宮があります。遷宮を持続すること、また日々の祭典を持続することを伊勢神宮ではもっとも大切にしてきたことです。伊勢神宮から学ぶ、持続可能の考え方。SDGsでひも解いてみましょう。

伊勢神宮とSDGs「森編」 ～伊勢神宮の森、宮域林と遷宮の御用材の関わりについて～

【対面講座日程】

日 時 6月18日(土) 19:30～20:30

参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場 所 五十鈴塾右王舎

定 員 20名

【オンライン講座日程】

日 時 6月18日(土) 19:30～20:30

参加費 全員 1,000円

配 信 ZOOM配信

伊勢神宮とSDGs「海編」 ～伊勢神宮の祭典に供える神饌と海の関わりについて～

【対面講座日程】

日 時 7月30日(土) 19:30～20:30

参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場 所 五十鈴塾右王舎

定 員 20名

【オンライン講座日程】

日 時 7月30日(土) 19:30～20:30

参加費 全員 1,000円

配 信 ZOOM配信

※この講座は対面講座とは別にオンラインでも同時中継いたします。
対面講座は五十鈴塾にお申込みいただき、オンラインの講座はストアカに直接お申し込みください。
オンライン視聴についてのお問い合わせは五十鈴塾にてお受けいたします。
※対面講座を両講座お申し込みされた方には記念品を差し上げます。

伊勢西国三十三所 ～もう一つのお伊勢参り⑤～

講 師 千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

三十三所のお話も5回目となりました。今回は四日市市、菰野町を中心としたエリアです。注目は菰野町にある尾高観音堂、尾高高原の麓にあり、1300年ほど前の創建と伝わります。御本尊は高さ1.7メートルの木像千手観音菩薩、なんと聖徳太子の作と伝えられています。そののち尾高山引接寺として、桓武天皇の篤い信仰を得たり、中世には藤原氏の支援で豪壮な七堂伽藍が建設されたりしましたが、戦国時代信長軍によって破壊され、江戸時代は桑名藩の支配をうけました。明治になって廃仏毀釈の影響を受け、以後檀家の方々の熱意によって守られてきました。現在残っている本堂は六角型で屋根の頂に宝珠が載っています。御本尊は秘仏で年1回御開帳されます。長い参道には樹齢300年の桜の巨木が立ち並び、ひっそりとはしていますが清々しい場所で地元の人たちによってよく手入れがされています。千種先生はここで何を感じられたのでしょうか。

日 時 8月10日(水) 13:30～15:00

参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場 所 五十鈴塾右王舎

定 員 20名